

令和4年度 府中市立府中第六中学校学校経営報告書

府中市立府中第六中学校

校長 相馬 朋行

今年度の教育活動の取組と成果

1 学習指導

- ・持続可能な社会づくりの担い手として自ら課題を解決する資質・能力の育成を図るため、「主体的・対話的で深い学び」を計画的に授業の中に取り入れる。
- ・授業において、「本時のねらい」と「本時のまとめ」を明示し、「見通しと振り返り」を計画的に行い、分かる授業を実践する。
- ・生徒用タブレットパソコンなどのICT機器を効果的に活用し、「学びに火をつける」効果的な課題を提示することで生徒の学習意欲の向上や学びの深化を図る。
- ・数学習熟度別少人数授業、英語習熟度別少人数授業を通じて生徒一人一人の特性を理解し、指導内容を工夫し学力向上を図る。
- ・家庭学習の課題を適切に設定することで家庭学習の習慣付けを図るとともに基礎学力を充実させ、応用力を養い、各調査における市、都、全国平均を上回る。

授業のねらいを提示することで生徒が1時間の授業で何を学ぶかが明確になる。しかし、授業のねらいが分かっても、教師主導で生徒が受け身の授業を行うだけでは、生徒にとっては学習した内容をただ吸収するだけで定着することはできない。そこで、授業を展開する上で重要となるのが授業のまとめで生徒自身が何を身に付けたかを振り返ることができるということである。そのため、本校では生徒自身が学習の見通しと振り返りができるように導入から終末までの流れを常に重視しながら授業を展開している。「主体的・対話的で深い学び」を適切に取り入れ、生徒が意欲をもって授業に取り組み、自他の考えの違いを認識し、意見を交わしながら自分の考えを修正する学びを実践し、生徒の学力向上を図った。また、少人数授業で生徒の習熟度に応じた指導を充実させることで生徒のつまずきに対応するとともに授業の内容に即した家庭学習の課題を設定することで基礎学力の向上を図った。タブレットパソコンによる授業が定着し、学びの多様性や自主性が確立されたことで生徒の学習への意欲や理解度が増した。

一方、各調査における結果は目標を上回ることができなかった。4月に行われた府中市の学力テストでは、いずれも市の平均点を下回り、国語は2.4ポイント、数学は3.7ポイント、英語は3.4ポイントの差があった。また、5月に行われた全国学力・学習状況調査では、全国平均と比べると、国語が同点で、数学が3.6ポイント上回り、理科が1.3ポイント下回ったという結果が出た。次年度に向けて一層の授業改善と家庭学習の習慣付けを行い、学力の向上に取り組んでいく。

2 生活指導・進路指導・道徳教育等

- ・府中六中スローガン「信頼と思いやり」を実践するため、他人を思いやる気持ちの育成を図り、思いやりに対する生徒アンケートの肯定的評価 90%以上を目指す。
- ・様々な場面においてあいさつを励行し規範意識を高めるとともに、あいさつに対する生徒アンケートの肯定的評価 95%を目指す。
- ・「学校いじめ防止基本方針」に基づいて毎月生徒の学校生活の様子を調査し、いじめや問題行動の早期発見と早期解決を目指し、いじめや暴力への指導、並びに教員の生徒の悩み相談に対する生徒アンケートの肯定的評価 90%を継続する。
- ・一人一人の個に応じた進路に向けた取組の充実を図るため、進路指導部を中心として全校体制で進路指導を推進する。
- ・考え、議論する道徳を実践するとともにあらゆる教育活動で道徳教育を推進し、多様な価値観を共有し豊かな心をもった生徒を育成する。
- ・学校図書館、学級文庫の充実を図り、読書に親しむ生徒を育てる。

府中六中スローガン「信頼と思いやり」はすべての普通教室や特別教室の黒板の上に掲示しており、生徒が常に目にし、意識を高められるものとなっている。また、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの早期発見と早期解決を目指すとともに生徒の悩み相談を随時行っている。そして、学校図書館の有効活用や学級文庫の冊数や管理状態の改善により読書活動を一層充実させ、豊かな心の醸成を図っている。

生徒アンケートでは、「周りの仲間たちに対して思いやりの気持ちをもって接している」という項目には 94.3%の生徒が、「あいさつをきちんとしている」という項目には 94.0%の生徒が、「教員は学校にいじめや暴力などの問題行動がないように熱心に指導している」という項目には 94.0%の生徒が、「道徳の授業は自分自身を見つめ直す機会となっている」という項目には 92.0%の生徒が、「学校生活は充実して楽しんでいる」という項目には 92.0%の生徒がそれぞれ肯定的な回答を示した。

一方、不登校生徒の出現率は時期によっては 6.5%を占めた。上記の生徒アンケートではどの項目も肯定的な回答が 90%を超えているものの、一部の生徒によっては学校生活の中で意欲が減退していたり、悩みごとを抱えていたりするという実態があることを真摯に受け止める必要がある。生徒が落ち着いて生活できる環境を整えるとともにサポートルームの制度を充実させ、生徒の学校に対する満足度を向上させていかなければならない。また、タブレットパソコンやスマート連絡帳を活用して学校と家庭の連絡を強化し、生徒の健全育成に努めていくことが肝要である。

3 特別活動

- ・体育的・文化的行事における生徒の主体的な活動を進め、行事に対する仲間との協力や積極性の肯定的な評価 90%を目指す。
- ・生徒会役員会を中心とし、生徒の委員会活動の活性化、充実を図り、委員会、係活動の

積極性に対する肯定的評価 90%を目指す。

- ・地域ボランティア活動への積極的な参加を促すことでボランティアマインドを養う。地域ボランティアへの生徒参加者の延べ人数100人以上を目指す。
- ・音楽の授業、朝礼、学校行事等を通じて歌唱指導を充実させ、校歌の歌唱を通して愛校心を育む。

体育大会では新型コロナウイルス感染症防止対策を講じた上で、生徒の集合状態が密にならないようプログラムの進行を工夫するとともに熱中症対策で生徒には競技中及び休憩中にマスクの適切な着脱や水分補給を随時呼びかけた。また、種目別・学年別の規制を行った上で保護者に公開した。合唱コンクールでは3年ぶりに全校一斉で催とし、保護者にも学年ごとに公開した。

生徒会の委員会活動は充実していた。各委員会の取組を毎月生徒会朝礼で報告し、一般生徒に周知した。生徒会役員主催によるハロウィン企画などのお楽しみイベントや校内草むしり運動では多くの生徒が積極的に参加した。また、小学校と連携し、生徒会役員が主体となって以下の3つの取組を実践した。1つ目は近隣小学校に1学年の代表生徒が向いてあいさつ運動を実施したこと、2つ目は中止となった2月の新入生児童説明会で行うはずだった説明を日を改めて近隣小学校を訪問する形で後日行ったこと、3つ目は生徒会役員と児童会役員との交流会を六中を会場として行ったことである。

地域ボランティアは令和元年度の実績を基に新型コロナウイルス感染症防止を配慮しながら参加内容を精選して行った。地域ボランティアに参加した生徒は延べ165人であった。

歌唱指導では、音楽の授業を中心として校歌の練習に取り組んだ。朝礼や学校行事等で全校生徒が一斉に校歌を歌うことはできなかった。学年での校歌斉唱については唯一卒業式で実施できた。

生徒アンケートでは、「行事に対して仲間と協力して自分から積極的に取り組んでいる」という項目には94.6%の生徒が、「委員会活動や係活動に積極的に参加し自分の責任を果たしている」という項目には93.6%の生徒がそれぞれ肯定的な回答を示した。

その他、昨年度実施できなかった当時1学年及び2学年の校外学習を今年度それぞれの学年で再設定し、実施できたことは生徒にとって大変有意義であった。

4 学校組織の活性化・教員の資質向上等

- ・校内研修会においてICT機器の活用に関する指導方法や授業改善方法、指導と評価の一体化等について研修するとともに年間3回授業研究を実施し、授業力向上を図る。
- ・特別支援教育校内委員会を週1回開催し、特別な配慮を必要とする生徒について支援の具体的方法を検討し、個に応じた指導の充実を図る。
- ・特別支援教室拠点校として巡回校との連携を深め、巡回指導の充実を図るとともに、特別支援教育へのさらなる効果的な実践に向けてユニバーサルデザインの視点に基づく学習環境の整備に取り組む。

- ・生活指導部会を週1回開催し、不登校生徒の情報交換を行い、家庭との連絡を密にするとともに関係機関と連携して登校に向けて支援する。不登校の出現率3%以下を目指す。
- ・主幹教諭、主任教諭による組織的なOJTを推進し、若手教員の人材育成を図る。
- ・定期的に服務研修を行うとともに随時服務に関する指導を行い、服務事故を撲滅する。
- ・勤務時間の管理及び校務の改善により働き方改革を推進し、すべての教員の週当たりの在校時間を60時間以内とする。
- ・学校経営支援事業、副校長等校務改善事業を有効に活用し、教育の質の向上と教員の業務軽減を図る。

校内研修会のテーマを「ICT機器を活用した『主体的・対話的で深い学び』につながる授業づくり」とし、学期に1回、研究授業・研究協議を行った。1, 2学期の研究協議では、国語・社会・数学・理科・英語・実技教科の6分科会に分かれて意見交換をした。3学期は府中市教育委員会の指導主事の先生を招いて講評・講話をいただいた。研究授業や研究協議を通してタブレットパソコンの有効な活用について学校全体で共有を図った。

特別支援教室拠点校として巡回校との連携を深めるとともに特別支援教育校内委員会で生徒一人一人の情報交換やスモールステップの目標設定を綿密に行った。一方、中学校4校の拠点校同士の主任の連携を密にし、保護者会の内容や新入生体験教室の内容及び日程や教材研究の題材の共有などについて各校の情報を集約し、各拠点校の特別支援教室の運営の充実に向けて活用した。

生活指導部会を週1回開催し、生徒の情報交換を密に行うとともに生徒の健全育成に向けて方策を練った。不登校登校の出現率については「2 生活指導・進路指導・道徳教育等」の項目で言及したとおりである。不登校の解消に向けて校内体制を強化するとともにけやき教室との連携を進めるなど多面的に取り組んでいくことが大事である。

本校が初任となる教員が10名いるため、主幹教諭・主任教諭によるOJTを計画的に進め、資質の向上を図った。若手教員も積極的にベテラン教員や中堅教員に教科指導・生活指導・進路指導について質問や相談をして自己の力量を伸長する努力をし、それを継続することで組織の一員としての自覚を高めた。

各学期の始めと終わりに服務研修を行った。とくに1学期にテーマとした性暴力については年間を通して随時処分発令を教職員全員に周知し、防止に努めた。

働き方改革を推進するために職員連絡会の議題について事前回覧を活用し、時間短縮を図った。また、昨年度、在校時間が長かった教員は自己のスケジュール管理を徹底し、業務の効率化を図り、下校時刻を早めた。一方、副校長等校務改善支援員を3人増やし、合計4人で校務改善支援を行ったため、副校長や教員の業務が大幅に削減された。

5 保護者・地域や近隣小学校との連携

- ・学校ホームページを通して開かれた教育課程を実践し、学校の情報を積極的に提供するとともに学校公開や学校アンケートを活用して保護者・地域の意見を収集し、学校の教育

活動に反映させる。

- ・近隣小学校と協働して児童・生徒の交流を行い、義務教育9年間を見通した児童・生徒の育成を図る。
- ・ふるさと教育の視点から生徒・教員の地域行事への参加を計画的に行い、地域の方々と
の交流を図る。生徒一人一人に地域の一員としての自覚をもたせ、災害時には自発的に
行動する人間に育てる。
- ・スクールコミュニティ協議会と連携し、地域とともに育てる生徒の視点を重視した教育活動
を展開する。
- ・PTAとの適切な関係を構築し、連携を取りながら学校の教育活動を推進する。

学校行事や学校公開において参観した保護者や地域の方にアンケートへの記入を依頼し、
記載されていた意見や質問を校内で検討し、学校の教育活動に反映させた。

今年度の小中連携の日では、各学期に「学力向上」「生活指導」「特別支援」「特別活動」「英
語教育」「府中 ESD レガシー」の6つの分科会に分かれて協議を行った。とくに、特別活動分科
会では児童会役員と生徒会役員の交流会の実施に向けて前向きな提案が出され、実現にいた
った(3 特別活動の項目に記載あり)。

今年度は3年ぶりに復活した地域行事が何件かあった。直接生徒が関わったものはあまりな
かったが、来年度はボランティアとして地域行事に参加することを含めふるさと教育を推進
する。

年間3回実施するスクールコミュニティ協議会では本校の教育活動についての成果や課題に
ついて様々な意見をいただいた。来年度の教育活動に生かしていく。

PTA役員会を毎月行い、学校とPTAとの連携・協力の具体的な内容を検討し、適切な関係を
築いた。